

学校目標・経営方針	校訓「観知創造」の精神のもと、21世紀をたくましく、心豊かに生き抜き、社会の進展や調和に貢献できる人間を目指す		山梨県立上野原高等学校校長 小佐野 賢貴
本年度の重点目標	1 基本的生活習慣の確立と、安全管理・規範意識の高揚を図る指導に努める。 2 学習習慣の確立と確かな学力の定着を図り、個々に応じた進路実現をめざしたキャリア教育の充実を図る。 3 生徒会活動を活性化するとともに、諸活動をとおして心身の健やかな成長を図る指導に努める。	A ほぼ達成できた。(8割以上) B 概ね達成できた。(6割以上) C 不十分である。(4割以上) D 達成できなかった。(4割以下)	(評価点) 報告書に記載した数値は原則これである。R1評価→R2評価(増減) 評価点は、回答%に係数を乗算した総和(計算式) 中央値は0となる *留意事項 なおR2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大による休校措置のため 当初年2回の実施予定を12月の1回のみとした。
			4 良くできている。 3 できている。 2 あまりできていない。 1 できていない。

本年度の重点目標			自己評価			学校関係者評価	
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策	評価
1	基本的な生活習慣の確立と、安全管理・規範意識の高揚を図る指導に努める。	① 自己管理能力の育成を図り、遅刻や欠席、朝食の欠食を減らす基本的な生活習慣の確立を図る指導 ② 法令遵守及び社会規範への意識を高め、確立を図る指導 ③ 節電・節水、ごみの分別などを通じて、環境美化を意識させる指導	学校評価アンケート等 学校評価アンケート等 学校評価アンケート等	以下、生徒評価および教員評価のベスト3、ワースト3のうち、この評価項目1に該当する結果のみを示す。 [生徒評価]ベスト3 ①開始時刻着席 [92] ②校則を守る [83] ③校則内容の理解 [82] 【教員評価】ワースト3 ③節電節水・ゴミ分別 [33] (保護者評価)ベスト3 ①校則規範意識 [62] ②毎朝朝食摂取 [60] (保護者評価)ワースト3 ③災害対処話し合い [5]	B	[生徒評価] 改善した項目 ・避難場所経路の把握 44→69 [+25] ・節電節水・ゴミ分別 64→80 [+16] ・規則正しい生活・健康維持 50→65 [+15] 【教員評価】改善した項目 ・スマホSNS適切使用 27→34 [+7] [生徒評価] 改善が必要な項目 なし 【教員評価】改善が必要な項目 ・基本的な生活習慣の確立 57→49 [-8] ・防災減災指導 50→46 [-4] ・規範意識の確立 52→51 [-1] ・節電節水・ゴミ分別 34→33 [-1] 多くの項目において、R1年度より生徒評価と教員評価の評価点が上昇したことは成果である。災害に対する取り組みがやや不足している点が課題である。さらにゴミの分別や節電節水のように、毎日の生活の中で環境や安全について意識を向上させる教育活動を充実させる必要がある。	3
2	学習習慣の確立と確かな学力の定着を図り、個々に応じた進路実現をめざしたキャリア教育の充実を図る。	① 家庭学習と授業の一体化を進め、確かな学力の定着を図ると共に、学ぶ意欲を高め、主体的・協力的な学びを深める指導 ② 相談活動及び個々に応じた指導の充実を図り、個々のキャリアを形成していく進路実現を図る指導 ③ 主権者教育や社会参画・地域連携事業を通して、未来を担う公民としての資質を育む指導	授業アンケート等 産業社会と人間、総合的な学習の時間での指導 行事アンケート等	以下、生徒評価および教員評価のベスト3、ワースト3のうち、この評価項目2に該当する結果のみを示す。 【教員評価】ベスト3 ①教育目標・指導重点理解 [63] ③望ましい職業観育成 [60] [生徒評価]ワースト3 ①自主的な学習習慣 [20] ②授業計画把握 [52] ③授業の内容理解 [55] 【教員評価】ワースト3 ①家庭学習と授業の一体化 [16] ③発展的な学習指導 [33]	A	[生徒評価] 改善した項目 ・シラバス授業計画把握 24→52 [+28] ・自主的な学習習慣 3→20 [+17] ・授業に集中 54→70 [+16] ・授業が理解できる 39→55 [+16] 【教員評価】改善した項目 ・シラバス観点別評価 21→41 [+20] ・望ましい職業観の育成 46→60 [+14] ・補充的学習指導 33→46 [+13] ・家庭学習と授業の一体化 9→16 [+7] [生徒評価] 改善が必要な項目 なし 【教員評価】改善が必要な項目 ・基礎基本の定着を図る 59→55 [-4] これまで下降し続けた学習活動に関する項目が、R2年度に大きく上昇した。評価点自体はまだ低いが、補充的学習指導の充実およびシラバスや観点別評価の生徒との共有を進めたことで改善が図られたと考察する。今後はオンラインの学習支援の仕組みをうまく活用することが課題である。授業と家庭学習の一体化をさらに進めながら望ましい学習習慣の確立と確かな基礎学力の育成を目指す。	4
3	生徒会活動を活性化するとともに、諸活動をとおして心身の健やかな成長を図る指導に努める。	① 文武両道の実践に向けた指導と各部の目標達成への積極的且つ規律ある部活動の指導 ② ホームルーム活動をとおして活力あるクラスづくりを目指すと共に、いじめをなくし生命と人格を尊重する態度を育てる指導 ③ 集団活動や種々の読書活動をとおして、思考力・判断力・表現力などの育成を図り、他と協働し協力し合うなど、思いやりのある心を育てる指導	学校評価アンケート等 心ボックスやいじめアンケートの活用 学校評価アンケート等	以下、生徒評価および教員評価のベスト3、ワースト3のうち、この評価項目3に該当する結果のみを示す。 【教員評価】ベスト3 ①いじめ不登校未然防止 [63] ②カウンセリングマインドで生徒対応 [62] 【教員評価】ワースト3 ②生徒会活動活性化の工夫 [32] (保護者評価)ベスト3 ③保護者の意見が言える [58]	B	[生徒評価]改善した項目 14 部活動の積極的参加 43→68 [+25] 17 避難場所経路の把握 44→69 [+25] 20 いじめ不登校未然防止 37→57 [+20] 【教員評価】改善した項目 20 いじめ不登校未然防止 48→63 [+15] 9 カウンセリングマインドで生徒対応 53→62 [+9] 12 部の規律ある指導 39→46 [+7] 13 生徒会活動活性化の工夫 25→32 [+7] [生徒評価] 改善が必要な項目 なし 【教員評価】改善が必要な項目 なし コロナ禍のため停滞していた生徒会活動の一部が再開され、部活動に対する積極性が上昇した。いじめ等の問題解決に多くの教員がチームを組んで、対応していることが高い評価につながった。今後もこの体制を継続する。	3